



北海道開発計画調査等説明会を開催します

～平成29年度調査結果について～

室蘭開発建設部は、平成29年度に北海道開発局が実施した北海道開発計画調査の説明会を下記のとおり開催します。

本説明会は、平成29年度に実施した2件の調査に関する説明、質疑及び意見交換を行うとともに、地域の課題解決に向け、調査成果の今後の広範な活用や地域の連携・協働などについて、皆さま方と検討していくことを目的に開催するものです。

なお、北海道開発計画調査は、北海道総合開発計画の企画、立案及び推進に必要な調査として北海道開発局が毎年度実施しています。

記

- 1 日 時 平成30年11月28日(水) 13時30分～15時30分
- 2 場 所 室蘭開発建設部 1階大会議室(室蘭市入江町1番地14)
- 3 内 容 (1)北海道ドライブ観光促進方策検討調査
(2)北海道型地域構造の保持・形成に向けたモデル的な圏域における検討調査
- 4 対象者 自治体職員、観光業関係者、まちづくり団体関係者等 (一般の方も参加可能です)
- 5 その他 参加を希望される方は、11月21日(水)までに、以下のいずれかの方法で、問合せ先の地域振興対策室までご連絡ください。
(電話)0143-25-7053
(FAX)0143-22-8842
(E-mail)hkd-mr-chiikisinko@ml.mlit.go.jp

【問合せ先】国土交通省 北海道開発局 室蘭開発建設部

地域振興対策室 地域振興対策官 木全 裕示 (0143) 25-7053

地域振興対策室 地域振興専門官 松本 弘美 (0143) 25-7053

室蘭開発建設部ホームページアドレス <http://www.hkd.mlit.go.jp/mr/>



北海道開発計画調査等説明会 参加申込書

FAX : 0143-22-8842

室蘭開発建設部 地域振興対策室 行

所属	
氏名	
連絡先	

※ご記入いただいた個人情報につきましては、説明会に関する事務のために利用させていただきます、それ以外の目的には使用いたしません。

■メールでお申込みの場合は、上記項目を本文に入力の上、以下のアドレスへ送信ください。

Mail : hkd-mr-chiikisinko@ml.mlit.go.jp

【お問合せ先】

〒051-8524 室蘭市入江町1番地14
北海道開発局 室蘭開発建設部 地域振興対策室
担当：地域振興対策官 木全
地域振興専門官 松本

TEL : 0143-25-7053

FAX : 0143-22-8842

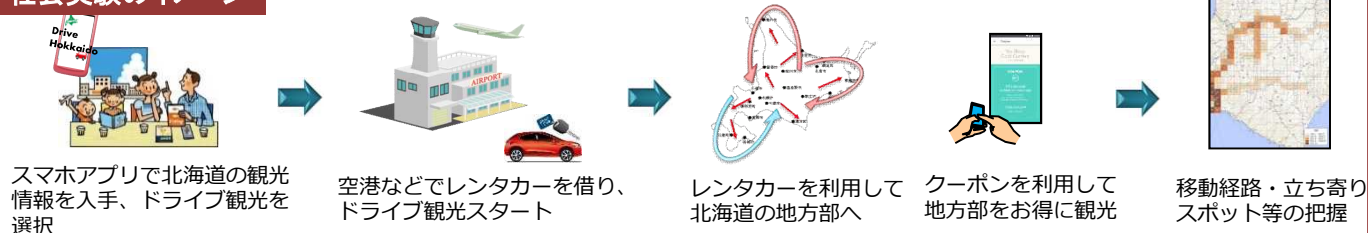
平成29年度北海道ドライブ観光促進方策検討調査

調査の目的・内容

✓ 外国人レンタカー利用者の立ち寄りスポット、移動経路等の把握

- ・北海道ドライブ観光促進社会実験協議会（事務局：北海道開発局）では、**地域間・季節間の旅行需要の偏在緩和に向け、主に外国人ドライブ観光客を北海道の地方部へ誘導する社会実験を実施。**
- ・スマートフォン用アプリケーション「Drive Hokkaido!」やウェブサイト等を活用し、北海道、特に**地方部の魅力的な観光資源や入場料割引等の特典を提供する施設等の情報を効果的に配信して各地への立ち寄りを促すとともに、外国人レンタカー利用者の立ち寄りスポットや移動経路等を明らかにし、その検証結果を今後の観光施策推進に役立てることを目的に実施**

社会実験のイメージ



社会実験の概要

実験期間：平成29年9月1日～11月30日（91日間）
対象地域：札幌市を除く北海道全域
対象者：主にレンタカーを利用する外国人観光客及び外国永住権を保有する日本人
観光情報：339資源
特典提供施設：249施設（札幌市を除く北海道全域から募集）
特典媒体：スマートフォン用アプリケーション「Drive Hokkaido!」
対象言語：英語/中国語（繁体字）

調査結果概要

アプリ利用者の属性

- 実験期間中、**1,211人の外国人観光客が北海道内でアプリ「Drive Hokkaido!」を利用。**（実験期間中の全道の外国人レンタカー貸渡台数19,543台の約6%に相当）
- 国・地域別では**香港、シンガポール、台湾、マレーシアの方が多く利用。**（図1）

周遊・滞在の概況

- レンタカー以外の交通手段では訪問が難しい地域も含めて、北海道内各地を広く周遊している。**（図2）
- 滞在については、札幌・小樽・登別など道央の主要観光地や函館・旭川・美瑛・富良野で多いほか、道東では網走・知床・阿寒摩周・釧路・帯広などで比較的多い。旭川・網走より北では、紋別・稚内・利尻島で滞在を確認。（図3）

図1. アプリ利用者の国・地域別構成割合

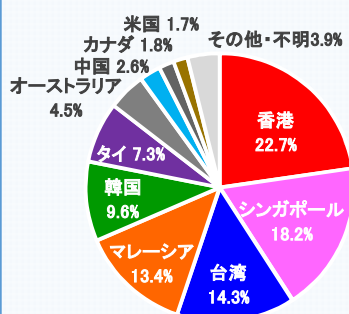


図2. GPSデータ測位者数（10kmメッシュ表示）

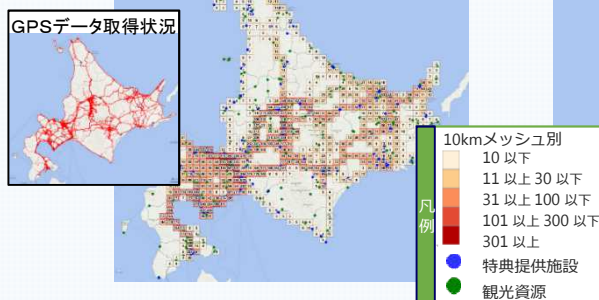
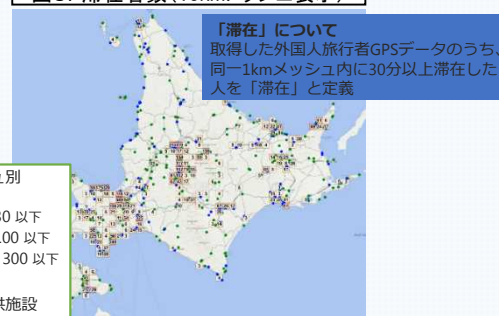


図3. 滞在者数（10kmメッシュ表示）



周遊・滞在の実態

【地方部への誘導(道央圏集中の偏在緩和)】

■ **外国人ドライブ観光客**(本実験におけるアプリ利用者、以下同じ)の**宿泊地について、地方部(道央圏以外)への宿泊割合は42.5%であり、他の移動手段も含む全旅行者データ**(平成28年度北海道庁調査:29.5%)**よりも高い結果**となった。(図4、図5)

■ 平成28年度社会実験対象地域である「**ひがし北海道**」地域において、**当該市町村を訪れた旅行者が30分以上滞在する割合を比較すると、今回は34%であり、平成28年度(27%)よりも高い結果**となった。(平成28年度社会実験:クーポンブックによる特典提供)

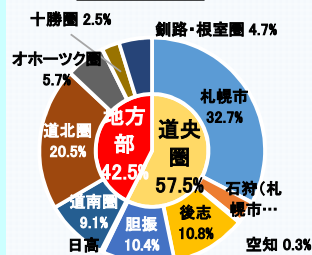
■ 全道的な周遊が見られ、**特に主要観光地や幹線道路沿線でGPSデータの測位を多く確認。一方、移動途中の立ち寄りが少なく、一気に広域移動している状況も見られた。**(図2、図3)

【旅行日数】

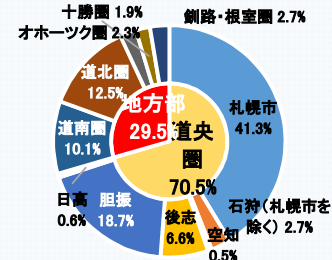
■ **外国人ドライブ観光客の平均旅行日数は5.8日**であった。**他の移動手段も含む全旅行者データ**(平成28年度北海道庁調査:3.8日)**よりも長い結果**となった。(図6)

図4. 外国人ドライブ観光客の圏域別宿泊割合

本社会実験結果 (GPSデータ)



【参考】北海道庁調査 (H28.9~11月)



出典: 「北海道観光入込客数調査報告書」(平成28年度)

図5. 地方部(道央圏以外)への宿泊割合

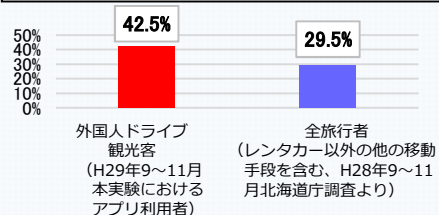
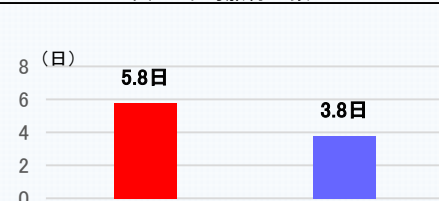


図6. 平均旅行日数

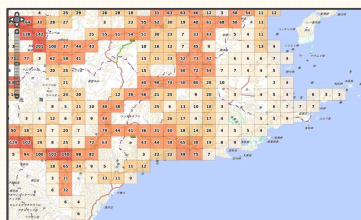


調査結果等を踏まえた取組

株式会社ナビタイムジャパンが運営するスマートフォン用アプリケーション「Drive Hokkaido!」(以下「アプリ」という。)により**外国人観光客の利便性向上に資する情報を発信するとともに、外国人観光客の移動経路等のデータを継続的に把握し、関係機関と共有することで、オール北海道でドライブ観光を促進するための新たなプラットフォームを構築。**

○会員に提供される情報

(株)ナビタイムジャパンが開発したスマートフォン用アプリケーション「Drive Hokkaido!」から得られた外国人観光客に関するデータを提供します。また、プラットフォームにおいて活用するSNSにて地域の観光情報など外国人観光客の利便性に資する情報を発信することが出来ます。



【10kmメッシュ 測位者数】



【10kmメッシュ間流動者数】



【Facebook(フォロワー約36,000人)】

※データサンプル数確保のため、チラシの配布、海外旅行博でのPR、ウェブサイトへのリンクなど、可能な範囲でアプリのダウンロード促進のためのプロモーションに御協力いただくこととしております。

本プラットフォームに参加を希望される団体等は、北海道開発局ホームページに掲載しております「北海道ドライブ観光促進プラットフォーム」をご覧ください。

URL: <http://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ki/renkei/splaat000001bhbxb.html>



北海道型地域構造の保持・形成に向けた モデル的な圏域における検討調査

調査の背景と目的

- ✓ 人口減少・高齢化が急速に進展する中、北海道の強みである食・観光を担う「生産空間」が、その役割を果たし続けるためには、地方部に広がる生産空間から都市部に至るまで、人々が住み続けられる地域社会構造を確立する必要。
- ✓ そのため、本調査では、複数の市町村から成るモデル的な圏域を設定し、圏域の現状及び地域課題・ニーズを整理した上で、北海道型地域構造の保持・形成を図るために必要となる各種施策について地域が主体となって検討を行った。

2010年の人口分布

2050年の人口分布



出典：総務省「H22国勢調査」、国土交通省「国土数値情報（土地利用3次メッシュ）第2.3版」、
「国土数値情報（将来推計人口メッシュ（国政局推計）」）を基に作成

調査内容

- ✓ **モデル的な圏域の現状及び地域課題・ニーズの整理**
3つのモデル的な圏域（名寄周辺、十勝南、釧路）において、既存の公開資料、文献、各種統計データ等により、各圏域の強み・弱みを明らかにするとともに、地域課題・ニーズを整理。
- ✓ **北海道型地域構造の保持・形成を図るための方策及び取りまとめ**
モデル的な圏域において、上記で整理した強み・弱みや地域課題・ニーズを踏まえて、地域の将来像及び今後必要となる施策とその適用可能性を検討し、北海道型地域構造の保持・形成を図るための施策を「施策パッケージ」として取りまとめた。なお、検討に当たっては、関連する市町村をはじめ学識者、民間事業者等を交えた「圏域検討会」を開催し、その討議を踏まえた。

北海道型地域構造について

- ✓ 北海道の「生産空間」は、主として農業・漁業に係る生産の場として、我が国の食料供給に大きく貢献し、観光その他多面的・公益的機能を提供。これからも、その役割を果たし続けるとともに、それを支える人々が住み続けることが必要。
- ✓ そのため、都市機能・生活機能が日常生活に支障のない水準で提供される「基礎圏域」を形成し、生産空間での暮らしを広域的に支えつつ、人々の活発な対流を促進。

基礎圏域を構成する3つの層

- **生産空間**：主として農業・漁業に係る生産の場。観光その他の多面的・公益的機能も提供
- **地方部の市街地**：役場、診療所、小中学校、商店・ガソリンスタンド、郵便局などが立地。生産空間の日常的な生活を支える拠点
- **圏域中心都市**：医療・福祉・介護、教育、商業、娯楽など高次な都市機能・生活機能が集積

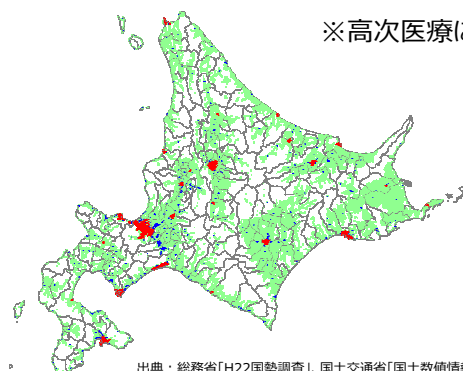
「頼り頼られる」3つの層

生産空間（農林水産や観光等を担う地域）



基礎圏域の分類図

※高次医療に着目した場合の例



- 生産空間
- 地方部の市街地
- 圏域中心都市

出典：総務省「H22国勢調査」、国土交通省「国土数値情報（土地利用3次メッシュ）第2.3版」を基に作成

「重層的な機能分担」と「ネットワークによる連携」で各層相互に結び付き

モデル的な圏域の設定と圏域検討会

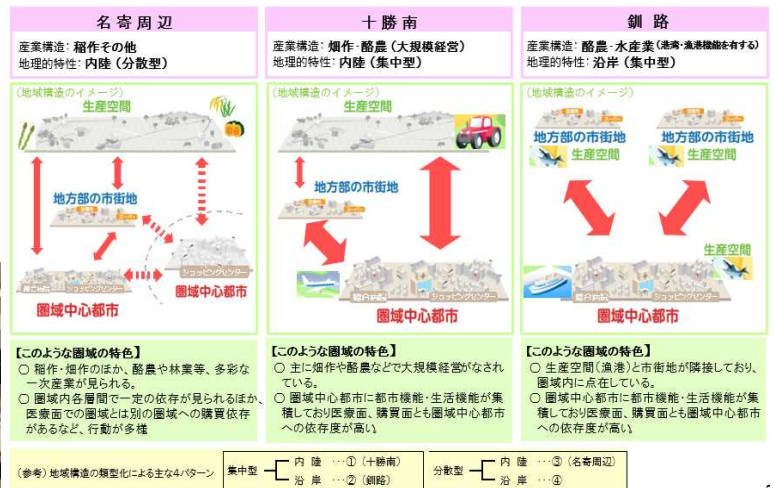
- ✓ 「生産空間」における定住環境の確保の観点から、医療面に着目した圏域を基に、道路交通網や購買依存の状況を踏まえた地域構造に加え、産業構造や地理的側面といったバランスを考慮して3つのモデル地域（名寄周辺、十勝南、釧路）を設定。

- ✓ それぞれの圏域において、学識者や民間事業関係者、自治体・行政機関による「圏域検討会」を設置。地域の現状や課題・ニーズを共有し、必要な取組等について幅広く議論。



圏域検討会の様子

圏域モデル的な圏域の分類



モデル的な圏域における検討 ～名寄周辺モデル地域での検討を例に～

- ✓ 圏域検討会での議論や既存データを踏まえ、4つの視点で、地域の現状や課題・ニーズを整理するとともに、生産空間の維持・発展に向けて地域が目指す姿と施策の方向性を整理し、施策パッケージを取りまとめ。

所得・雇用の確保

- 人口減少・高齢化の進行
- 出生率が比較的高い中、働世代の社会減抑制
- 多種多様な1次産業を活用した高付加価値化
- 農家戸数の減少の中、生産力維持、生産性の向上

■ピーク時人口比（2055年）

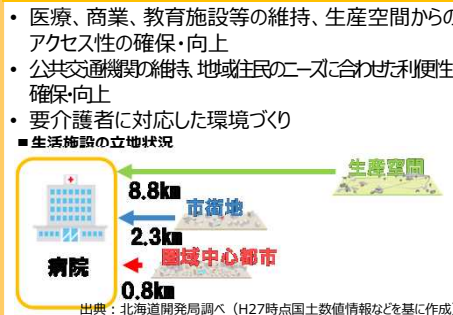
地域	人口比	モデル地域平均	北海道平均	全国平均
名寄市	41.0%	22.3%	59.2%	71.8%
士別市	20.0%			
和寒町	11.9%			
剣淵町	15.8%			
下川町	9.4%			
美深町	16.7%			
首蔵子府村	7.3%			
中川町	8.4%			
幌加内町	5.2%			

出典：国勢調査（1955-2015）、社人研将来人口推計（2020-2055）

目指す姿

農業の多様性や
新たな技術を活かした
夢のある農林業の持続的な発展

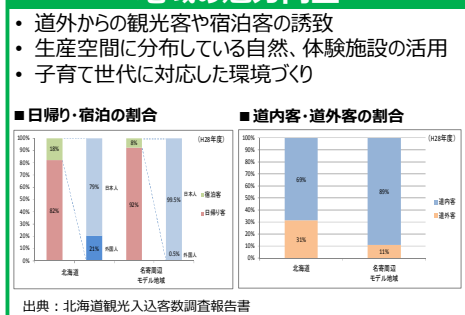
生活機能・集落機能の確保



目指す姿

地域に安心して住み続けるための
生活交通と物流ネットワークの確保

地域の魅力向上



目指す姿

積雪寒冷な自然環境を活かした
チャレンジ精神に富む
人材による観光振興

安全・安心な社会基盤の形成

- 気候変動により自然災害が頻発、激甚化
- 生産空間の被災により食料供給基地の役割の消失の懸念
- インフラの老朽化

■台風、低気圧による出水

①平成26年8月4日
低気圧に伴う出水

②平成28年8月20日
台風9号に伴う出水

出典：平成28年8月北海道大雨激甚災害を踏まえた水防災対策検討委員会資料

目指す姿

積雪寒冷地特有の
厳しい気象条件でも
安全・安心に暮らせる地域づくり

圏域検討会で議論した施策の体系図



圏域検討会で議論された施策を4つの視点に基づき体系化。それぞれの施策が相互に関連しつつ、相乗的効果が発揮されることを目指す。